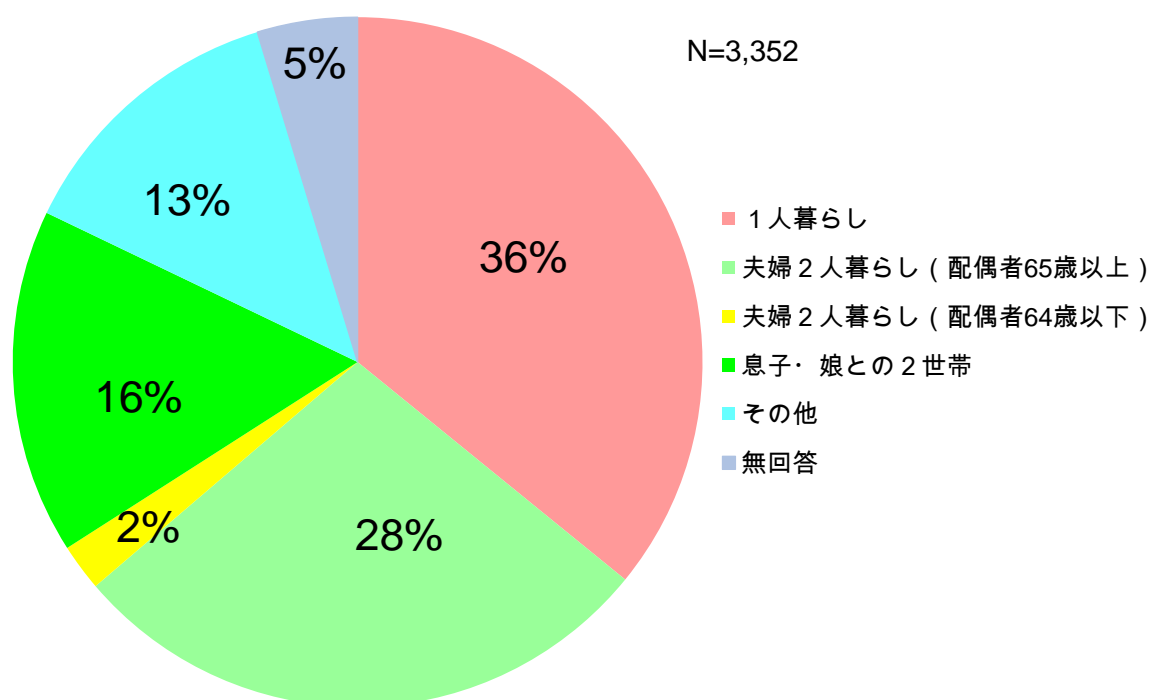


# 第7期神戸市介護保険事業計画策定に向けての実態調査結果(概要)

## 在宅高齢者実態調査

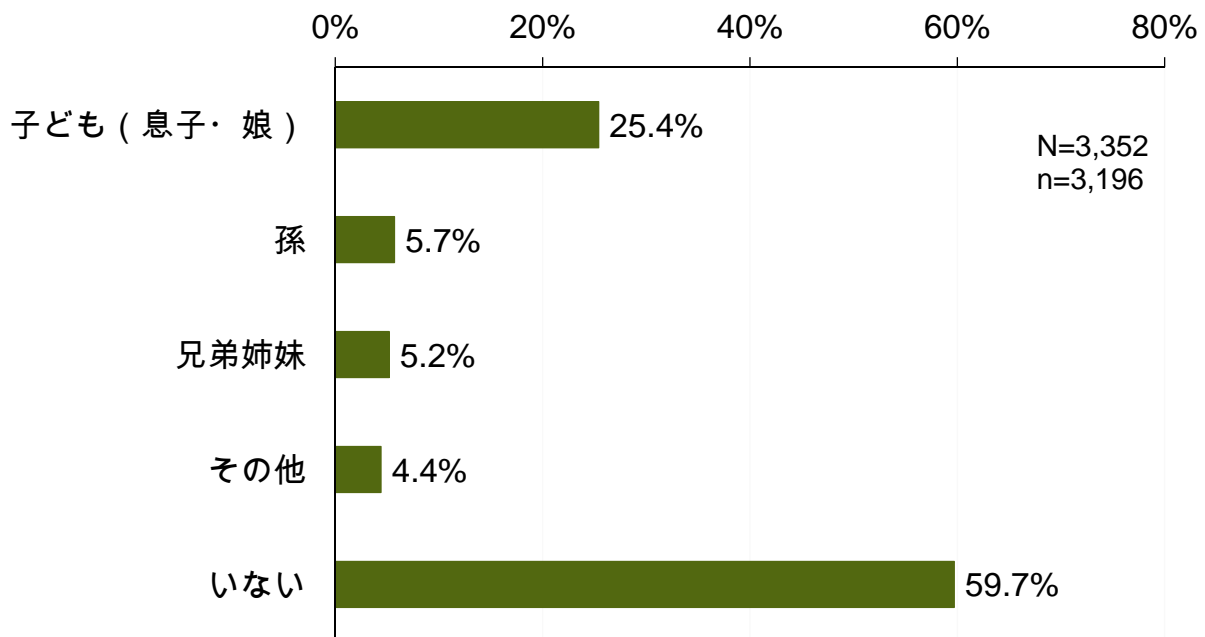
### 世帯構成

単身世帯が36%、ともに65歳以上の夫婦のみ二世帯が28%となっている。



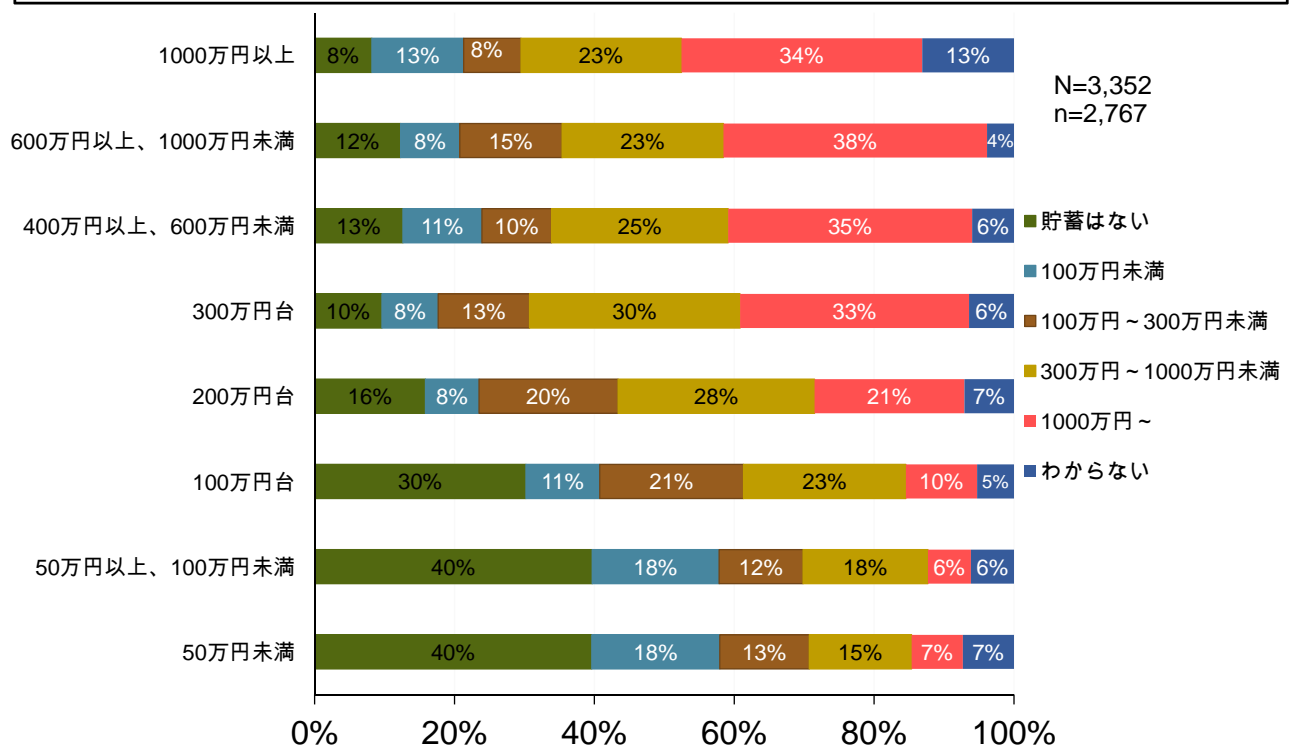
# 近隣に居住する親族

歩いて15分以内ぐらいの距離に住んでいる親族はいるかたずねたところ、「いない」と回答した割合は約6割となっている。



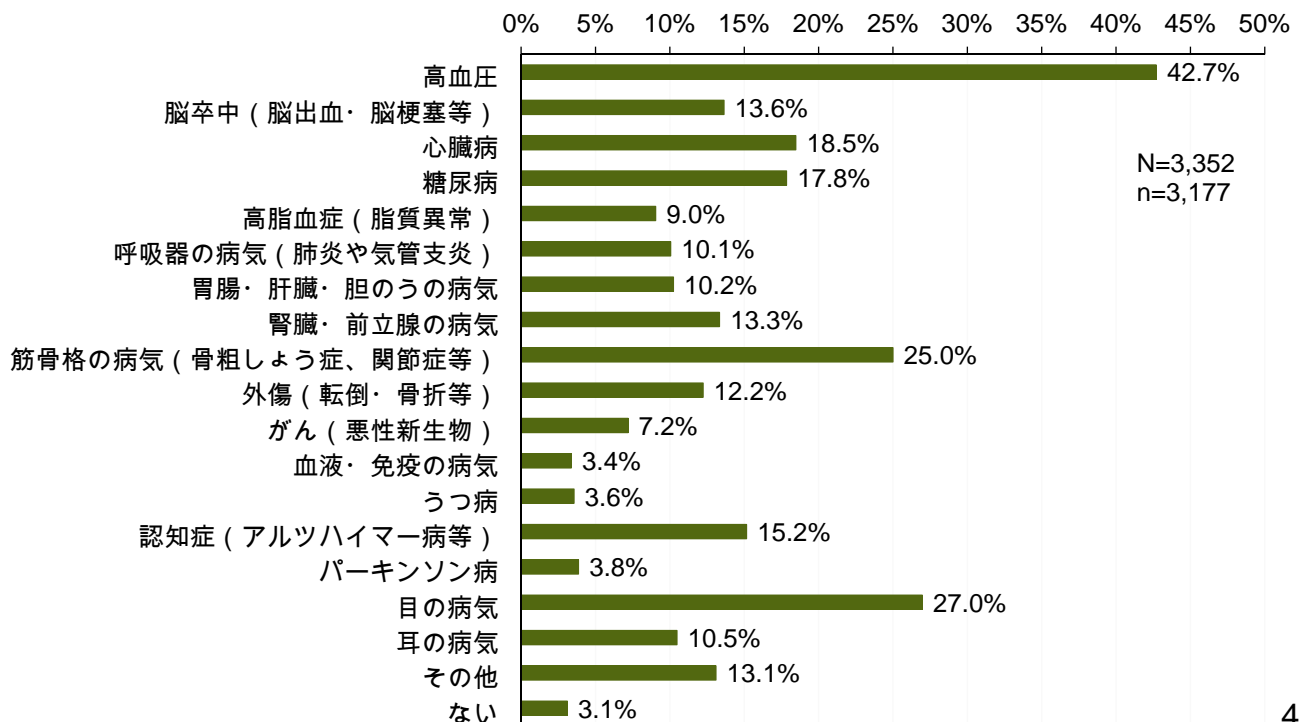
# 収入／貯蓄額

世帯収入200万円未満では「貯蓄額はない」が30～40%となっている。世帯収入300万円以上では貯蓄額「1000万円以上」が約30～40%となっている。



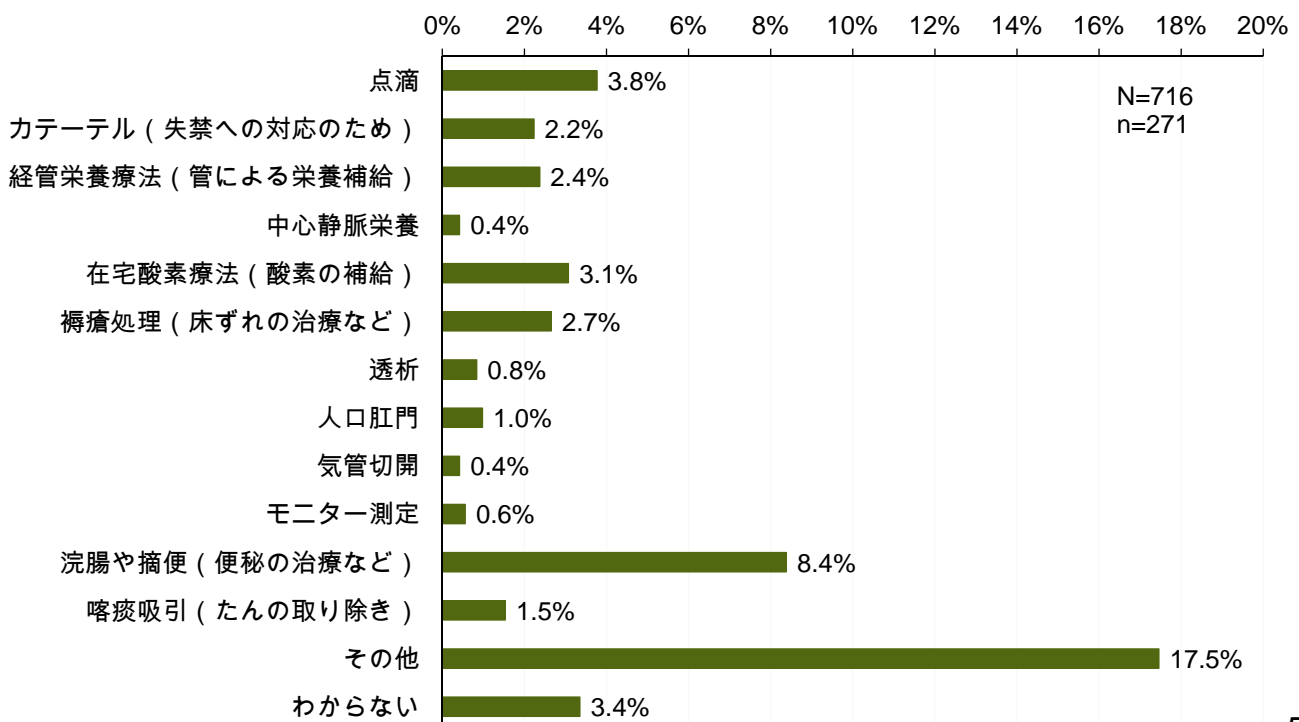
# 罹患状況

病気で最も多いものは、「高血圧」で42.7%、次いで「目の病気」27.0%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」25.0%、「心臓病」18.5%、「糖尿病」17.8%、「認知症（アルツハイマー病等）」15.2%が多くなっている。



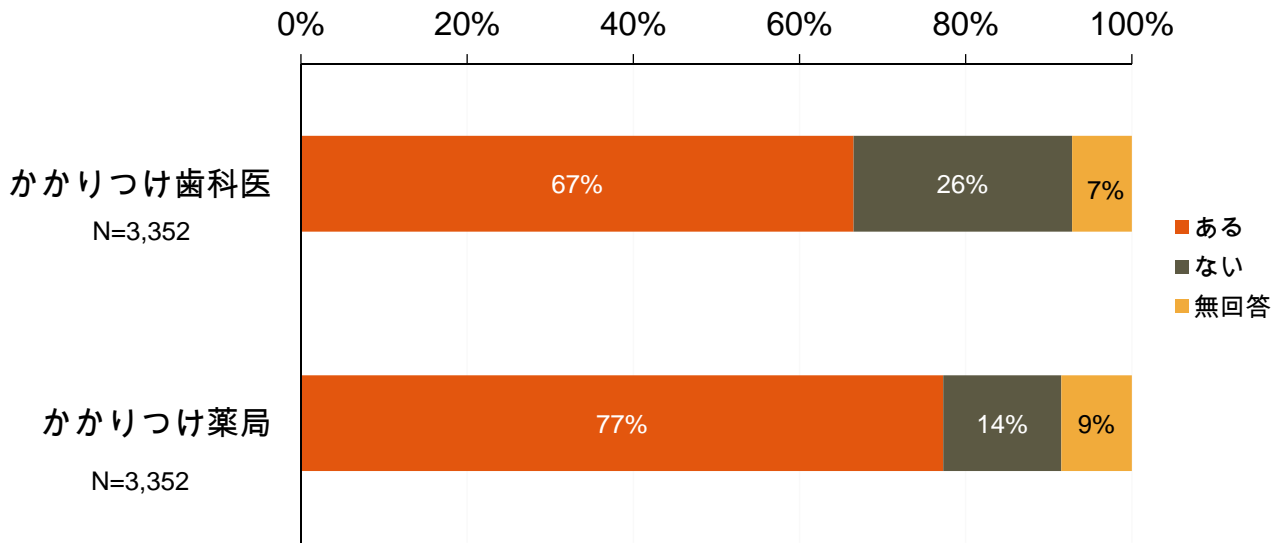
# 自宅での治療等

自宅で医師等による治療や指導を受けている方は21.4%。自宅で受けている医療の種類として最も多いのは、「浣腸や摘便」8.4%、次いで「点滴」3.8%、「在宅酸素療法（酸素の補給）」3.1%、「褥瘡処理」2.7%が多くなっている。



# かかりつけ歯科医・薬局

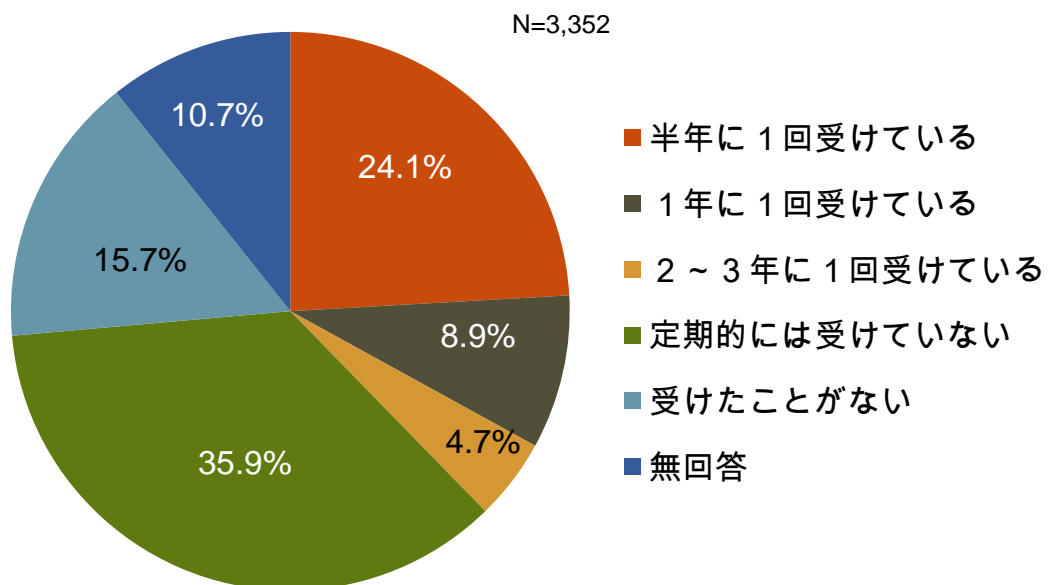
約7割の方が、かかりつけ歯科医師が「いる」と回答している。  
約8割の方が、かかりつけ薬局が「ある」と回答している。



6

# 歯科検診の受診率

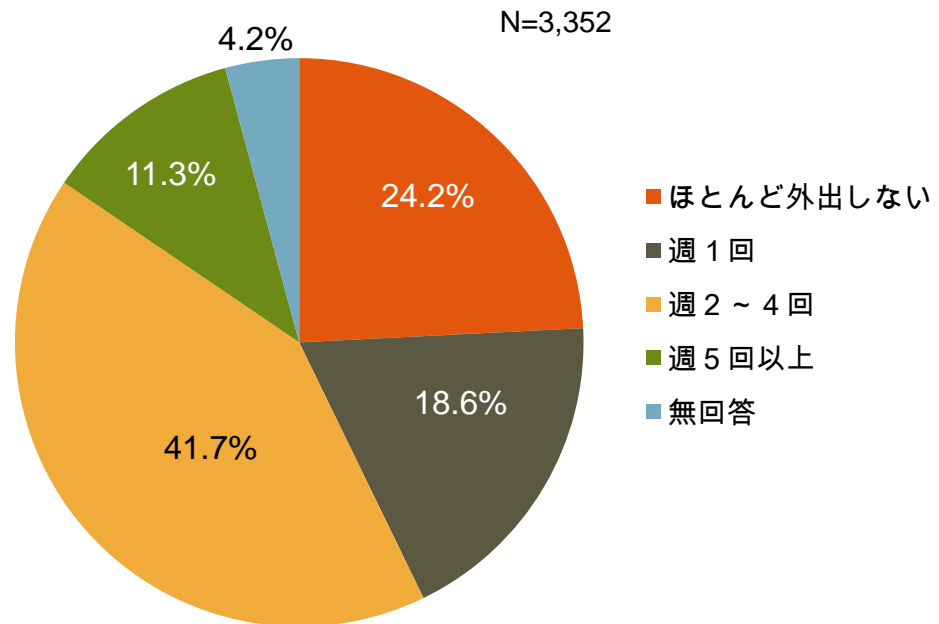
約33%の方が1年に1回以上歯科検診を受診している一方、「定期的には受けていない」「受けたことがない」が合わせて約5割となっている。



7

# 外出頻度

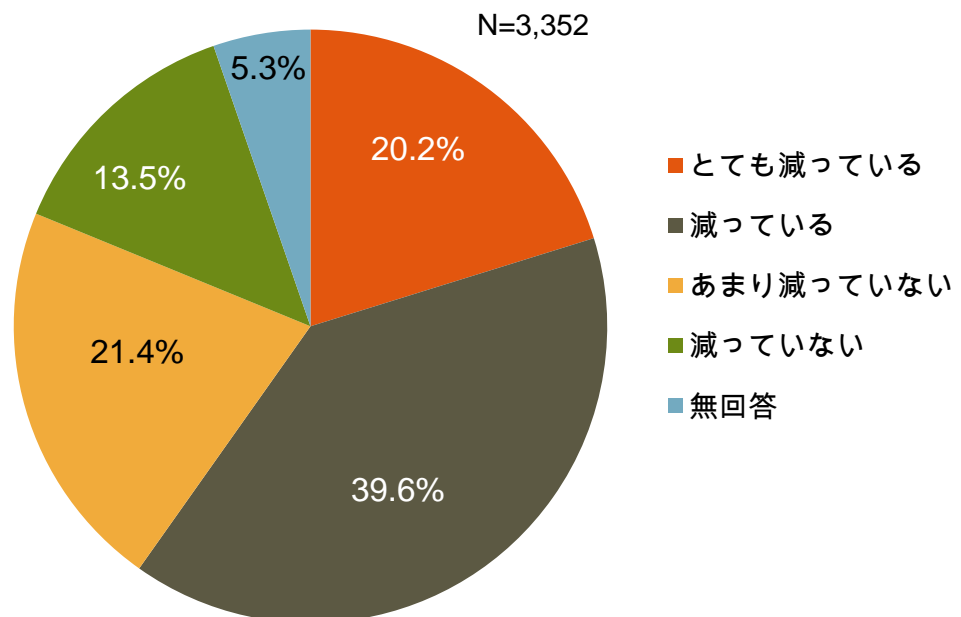
「週に2~4日」が41.7%と最も多い。「ほとんど外出しない」と「週1回」を合わせると42.8%となっている。



8

# 外出の増減

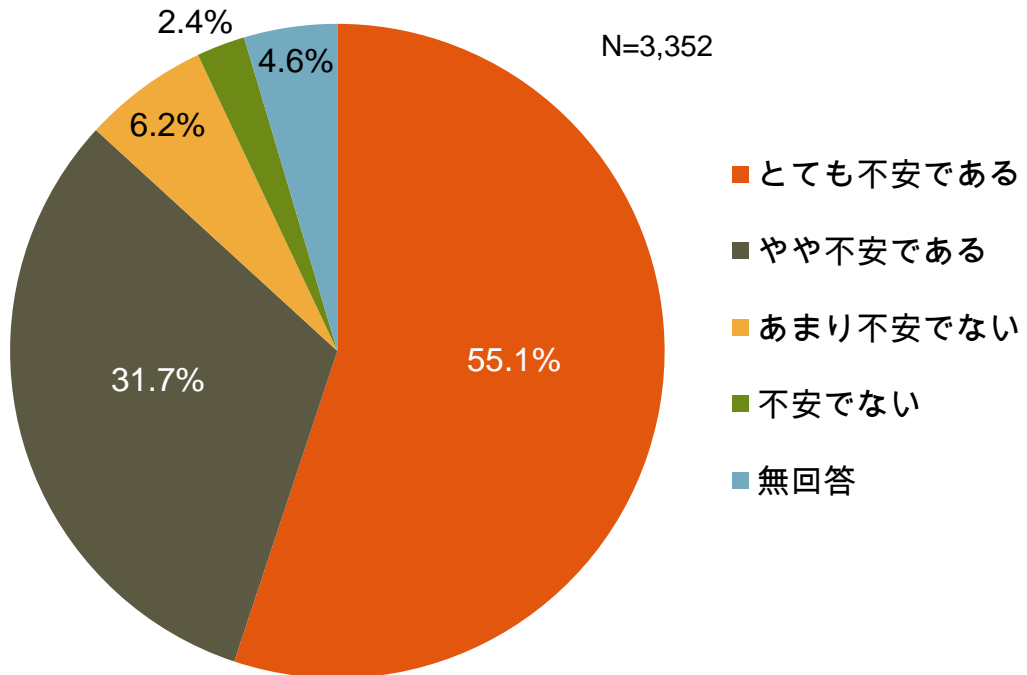
昨年と比べて外出の回数が減っているかどうかをたずねたところ、「とても減っている」「減っている」が合わせて59.8%となっている。「あまり減っていない」「減っていない」は合わせて34.9%となっている。



9

# 転倒に対する不安

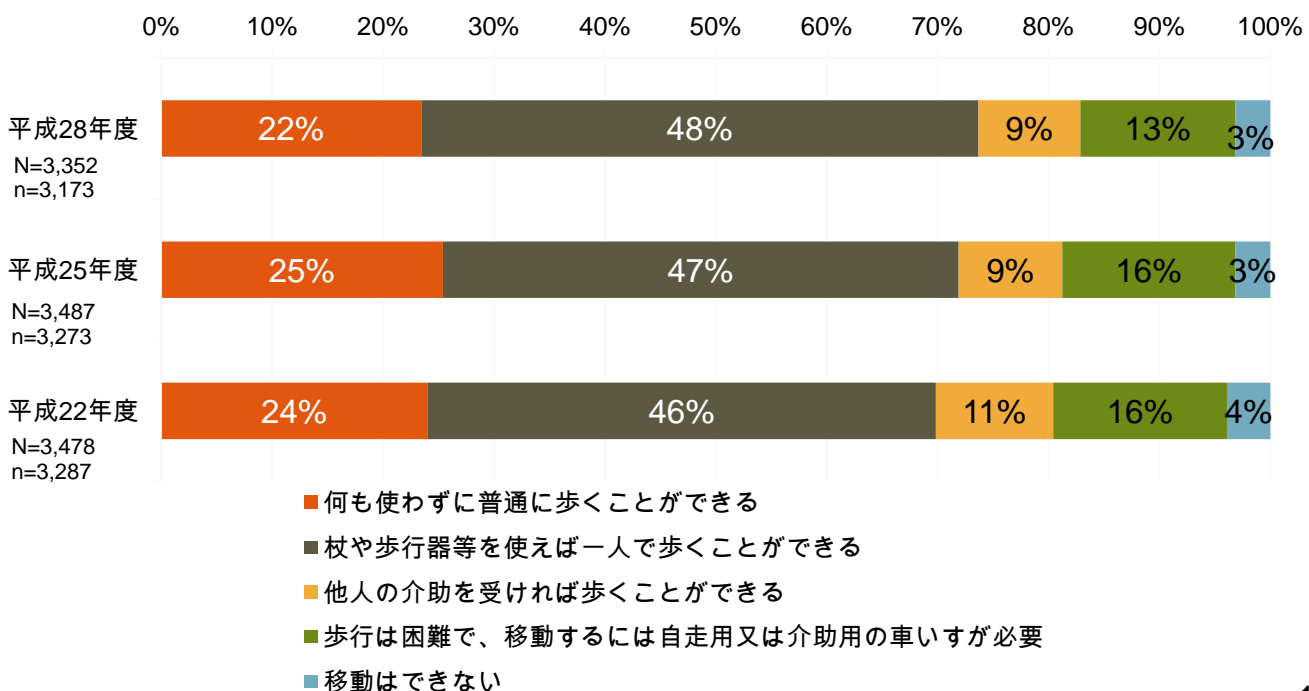
「とても不安である」と回答した方が55.1%となっている。これに「やや不安である」を合わせた86.8%の方が転倒に対する不安を持っている。



10

# 身体状況

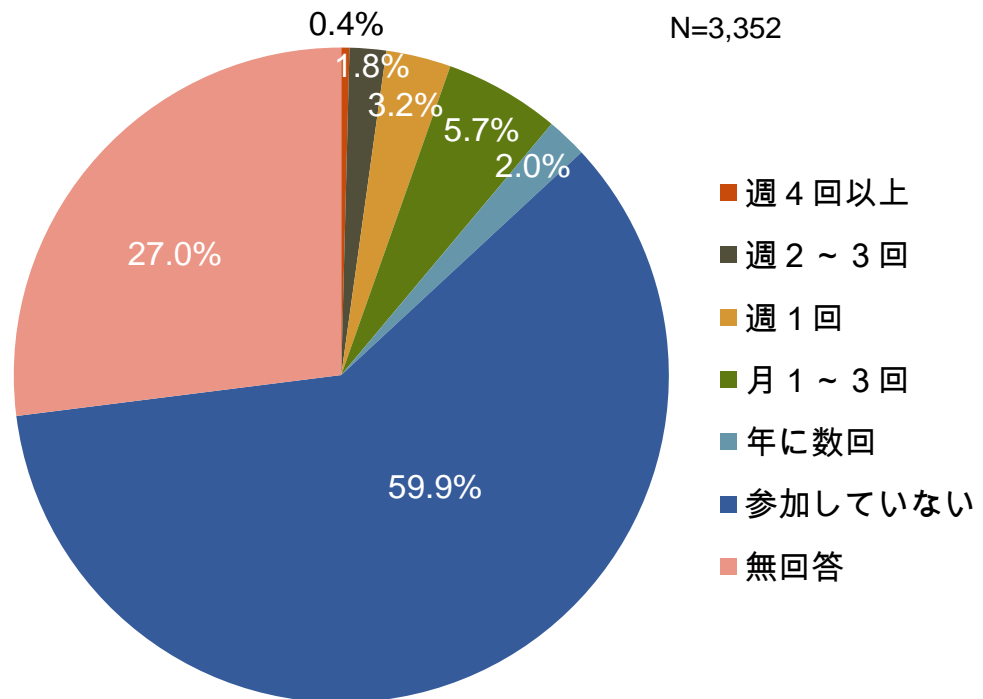
前回調査と比較して、(A)「杖や歩行器等を使えば一人で歩くことができる」が1ポイント増加し、(B)「何も使わずに普通に歩くことができる」が3ポイント減少している。(A)(B)を合わせた約7割の方が一人で歩くことができると回答している。



11

# 趣味のグループへの参加頻度

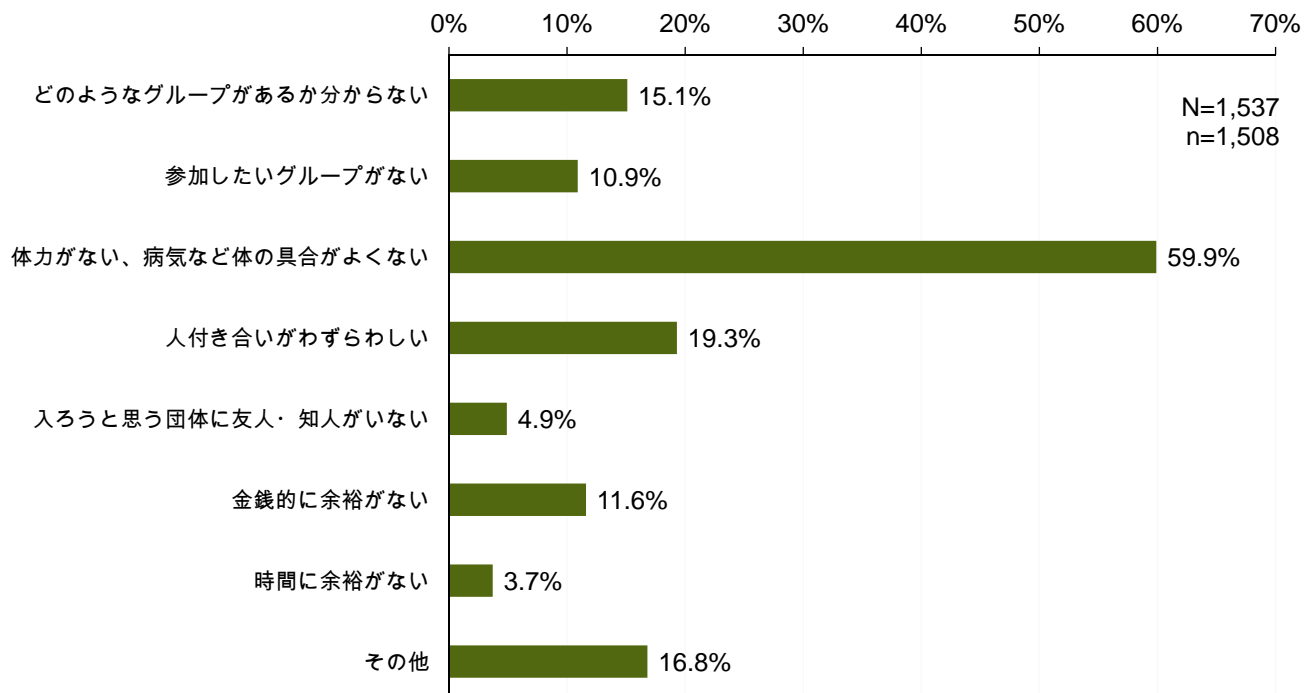
趣味のグループには、13.1%の方が参加しているが、約6割の方は「参加していない」と回答している。



12

# 会・グループに参加していない理由

いずれの会・グループにも参加していない方に参加していない理由をたずねたところ、「体力がない、病気など体の具合がよくない」が最も多く59.9%となっている。「どのようなグループがあるか分からない」と答えた方は15.1%となっている。

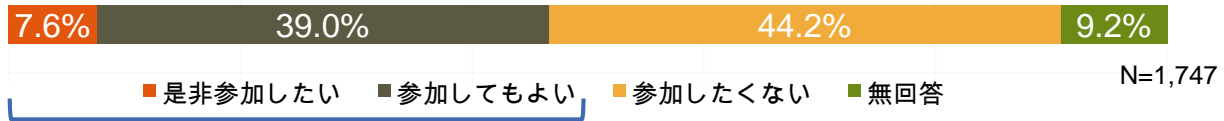


13

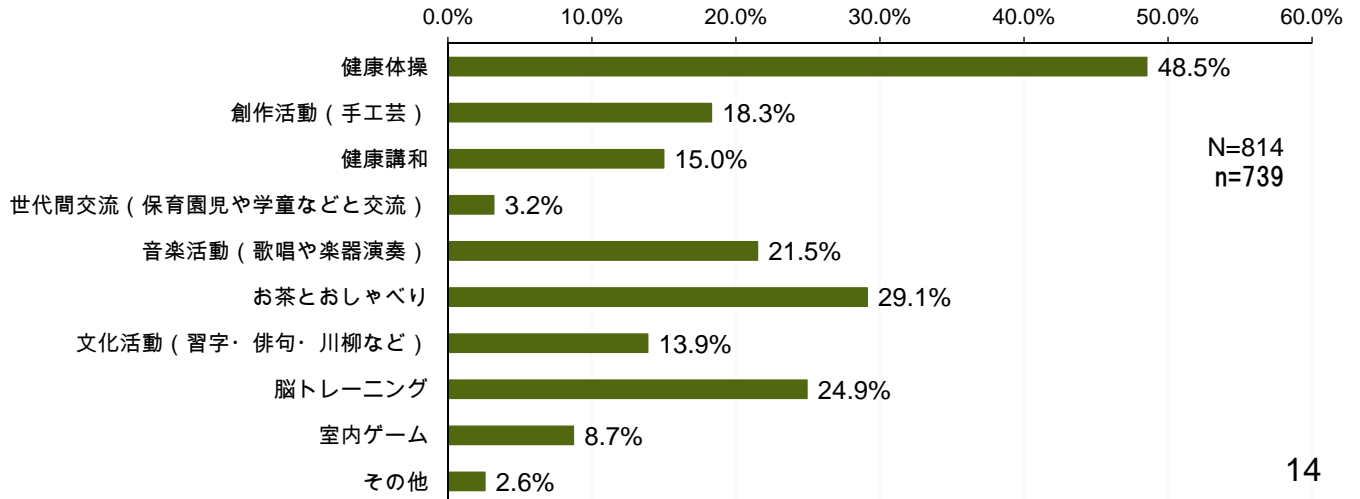
# 地域住民によるグループ活動への参加希望

約5割の方が、「参加したい」又は「参加してもよい」と回答している。参加したい又は参加してみたい活動は、「健康体操」が48.5%と最も多く、次いで「お茶とおしゃべり」29.1%、「脳トレーニング」24.9%、「音楽活動」21.5%が多くなっている。

○地域住民の有志による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加したいか。(要支援者のみ)



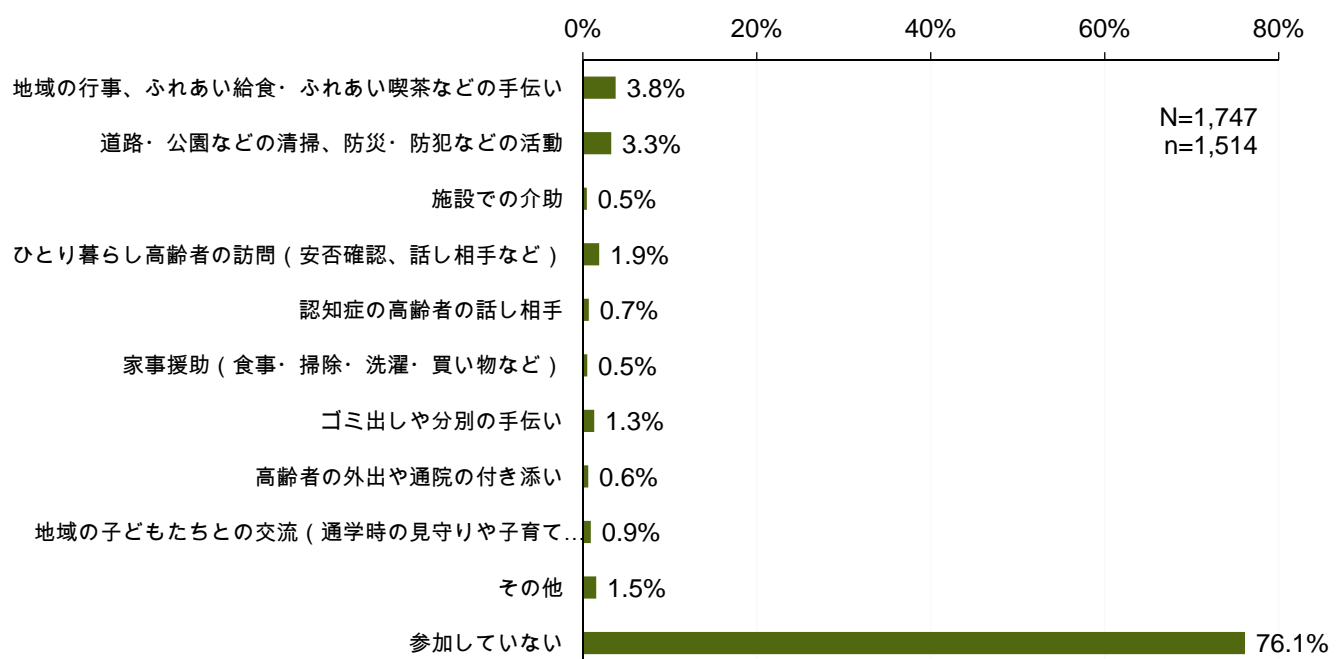
○参加したい又は参加してもよいと思うグループ活動



# 地域で参加しているボランティア活動

<要支援者>

地域のボランティア活動には、76.1%の方が「参加していない」と回答している。参加している活動では、「地域の行事、ふれあい給食・喫茶などの手伝い」3.8%、「道路・公園などの清掃、防災・防犯などの活動」3.3%、「一人暮らしの高齢者の訪問」1.9%の順に多くなっている。

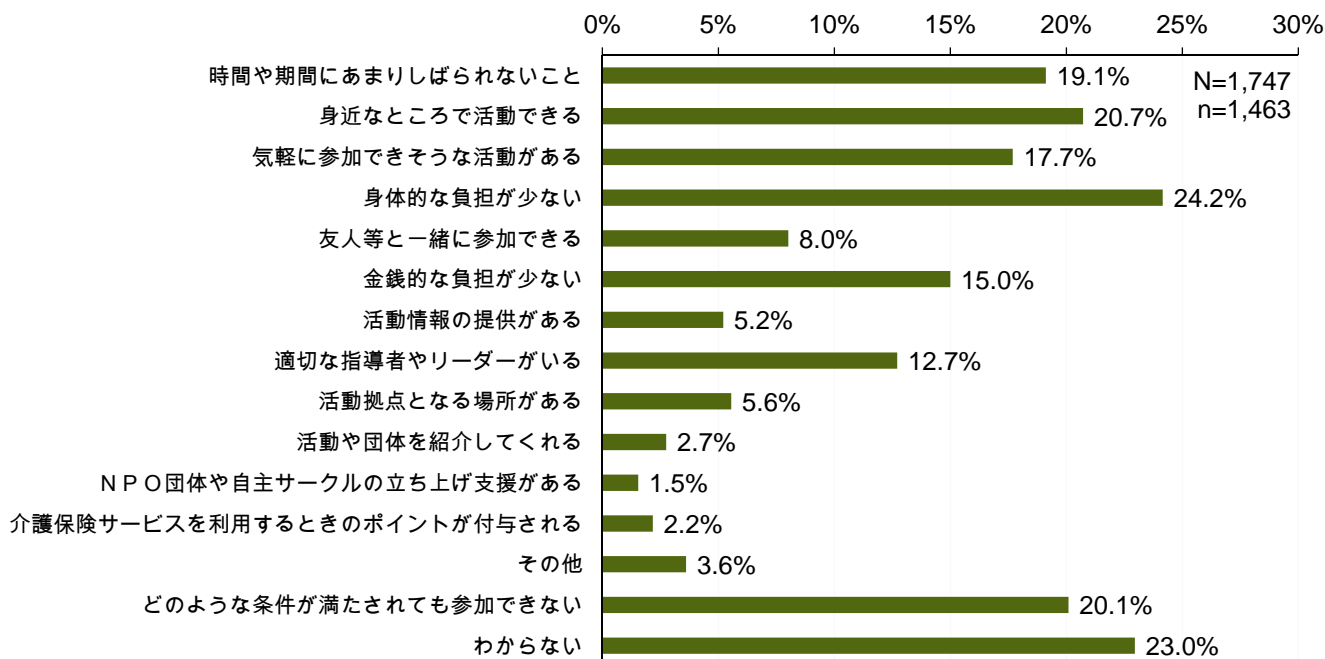




# ボランティアへの参加条件

<要支援者>

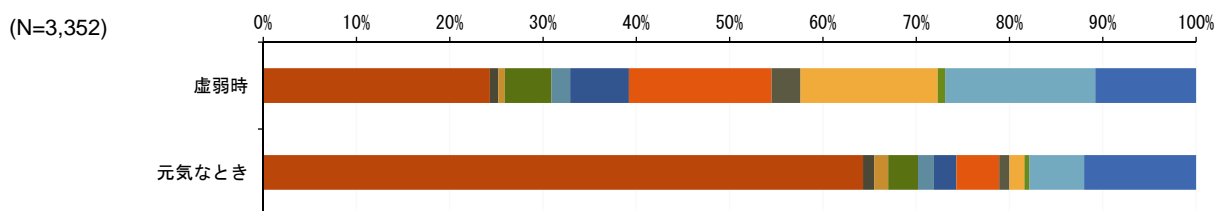
ボランティアに参加したり今以上に参加するための条件をたずねたところ、最も多いのが「身体的な負担が少ない」で24.2%、次いで「身近なところで活動できる」20.7%、「時間や期間にあまりしばられないこと」19.1%、「気軽に参加できそうな活動がある」17.7%が多くなっている。一方、「どのような条件が満たされても参加できない」との回答が20.1%ある。



16

# 住まいの希望

「お元気なとき」は「現在の住宅」が64.3%となっている。「身体が虚弱化したときなど介護が必要となった場合」については、「現在の自宅」は24.3%に減少し、「特別養護老人ホーム等老人福祉施設」が10.7ポイント、「病院などの医療施設」が13.1ポイント増加している。

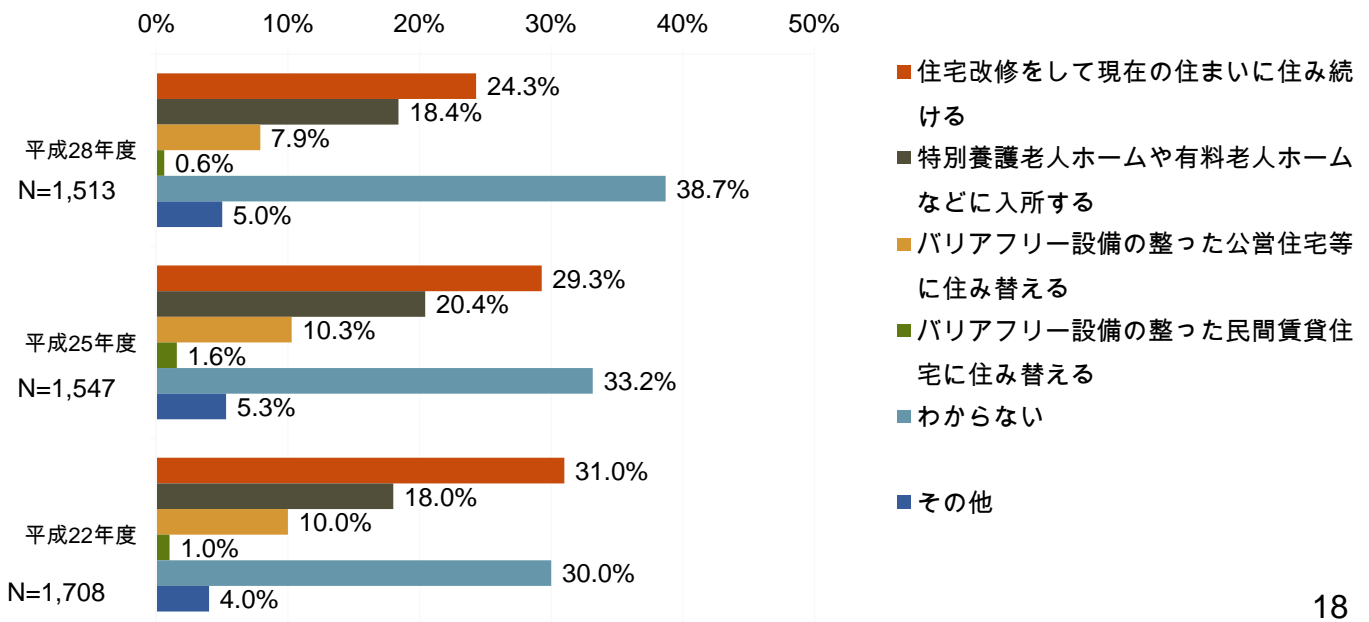


	元気なとき	虚弱時
■現在の住宅	64.3%	24.3%
■利便性の高い都心の住宅	1.2%	0.9%
■公的な住宅	1.5%	0.7%
■公的な高齢者向け住宅	3.2%	5.0%
■民間の高齢者向け住宅	1.7%	2.0%
■介護付有料老人ホーム等以外の世帯	2.4%	6.3%
■特別養護老人ホーム等老人福祉施設	4.6%	15.3%
■老人保健施設	1.1%	3.1%
■病院など医療施設	1.6%	14.7%
■その他	0.5%	0.8%
■わからない	5.9%	16.1%
■無回答	12.0%	10.8%

17

# 住まいのバリアフリー化の意向

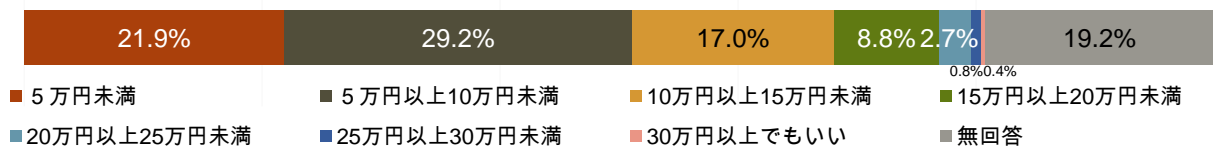
住まいのバリアフリー化が「十分だと思わない」と回答した方に、今後の意向をたずねたところ、「住宅改修をして現在の住まいに住み続ける」が24.3%、「特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所する」が18.4%となっている。  
 前回調査との比較では、「住宅改修をして現在の住まいに住み続ける」が5.0ポイント減少している。



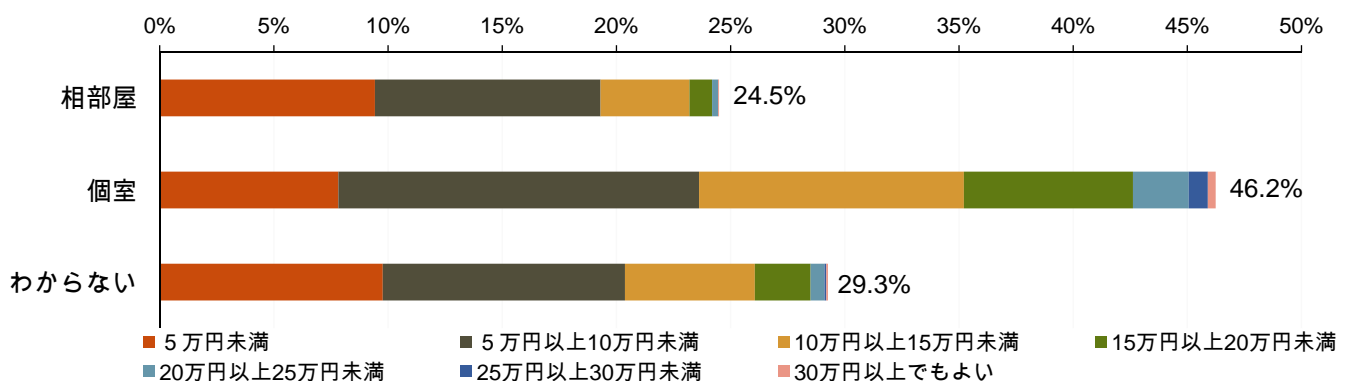
# 特別養護老人ホームの毎月の負担可能額

毎月の支払い可能額は、「5～10万円」が29.2%と最も多く、次いで「5万円未満」21.9%、「10～15万円」17.0%、「20～25万円」8.8%の順に多くなっている。  
 個室と相部屋の概ねの負担額を紹介したうえで、個室・相部屋のどちらを選択するかたずねたところ、46.2%の方が「個室」、24.5%の方が「相部屋」と回答している。

○特別養護老人ホームに住替えたり、入所する場合、毎月の支払いはいくらまで負担できるか。 N=3,352

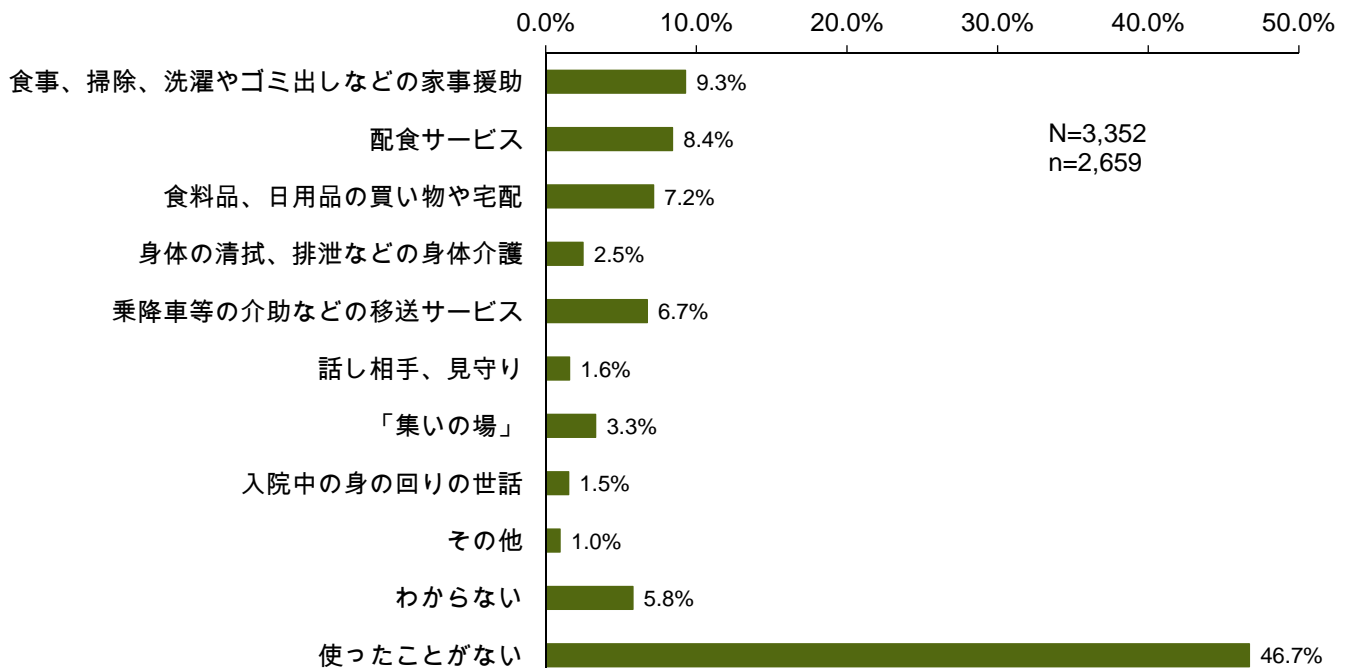


○特別養護老人ホームに入所することになった場合に個室・相部屋のどちらを希望するか。 N=3,352 n=2,621



# インフォーマルサービスの利用

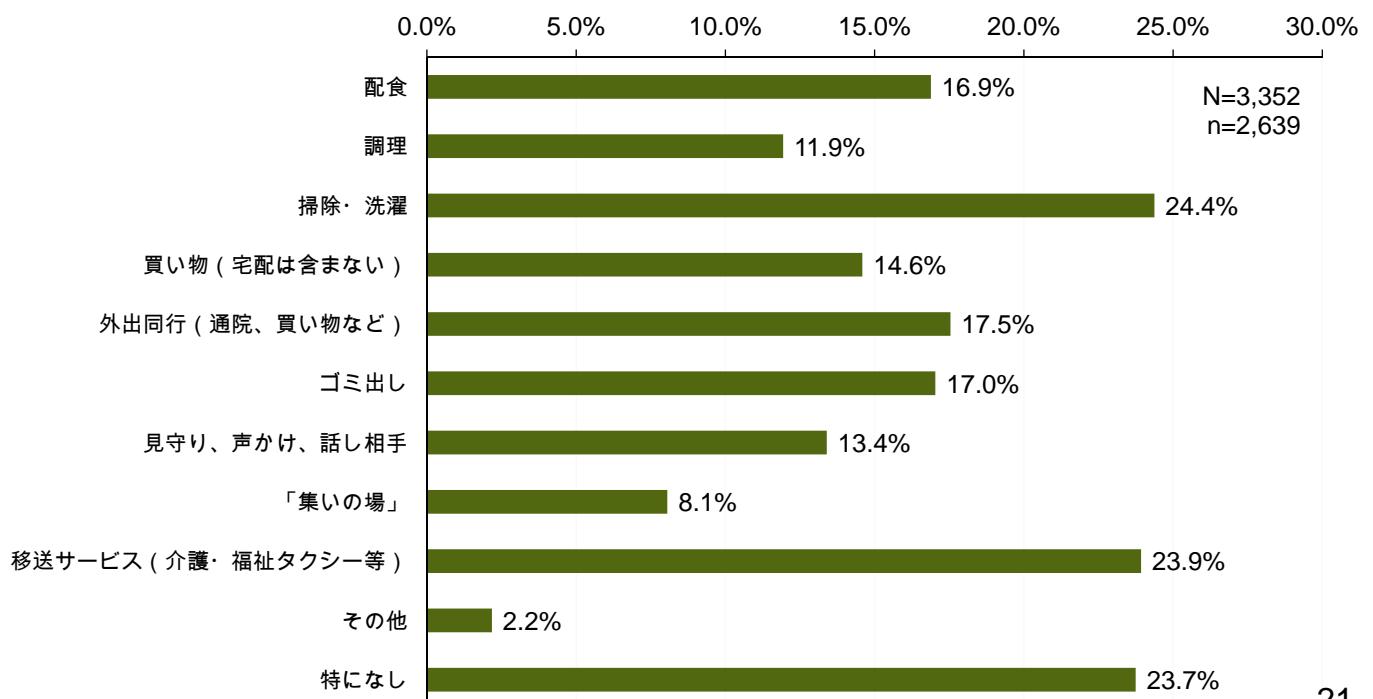
「食事、掃除、洗濯やゴミ出しなどの家事援助」9.3%、「配食サービス」8.4%、「食料品、日用品の買い物や宅配」7.2%、「乗降車等の介助などの移送サービス」6.7%の順になっている。一方、「使ったことがない」方が46.7%となっている。



N=3,352  
n=2,659

# 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

在宅生活の継続に必要な又はさらなる充実が必要と感じるサービスをたずねたところ、「掃除・洗濯」が24.4%と最も多く、次いで「移送サービス」23.9%、「外出同行」17.5%、「ゴミ出し」17.0%、「配食」16.9%が多くなっている。

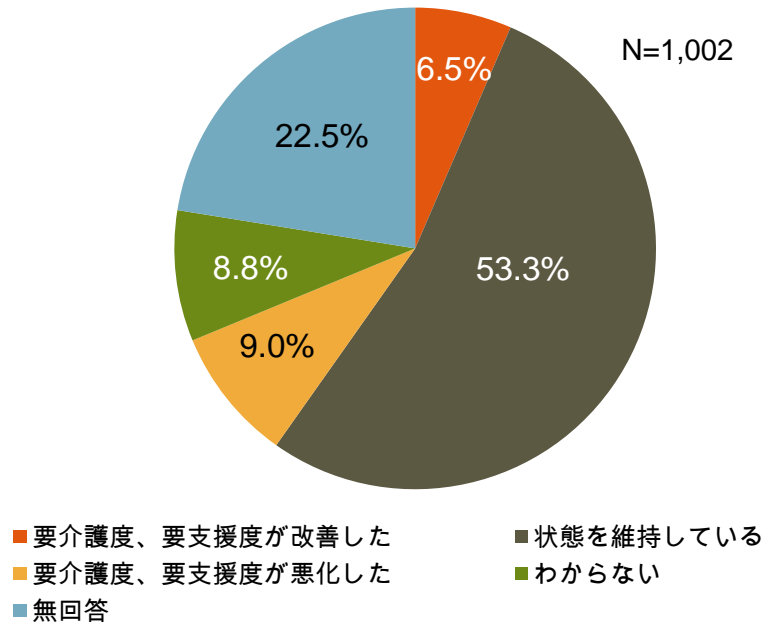


N=3,352  
n=2,639

# 通所介護利用者の改善状況

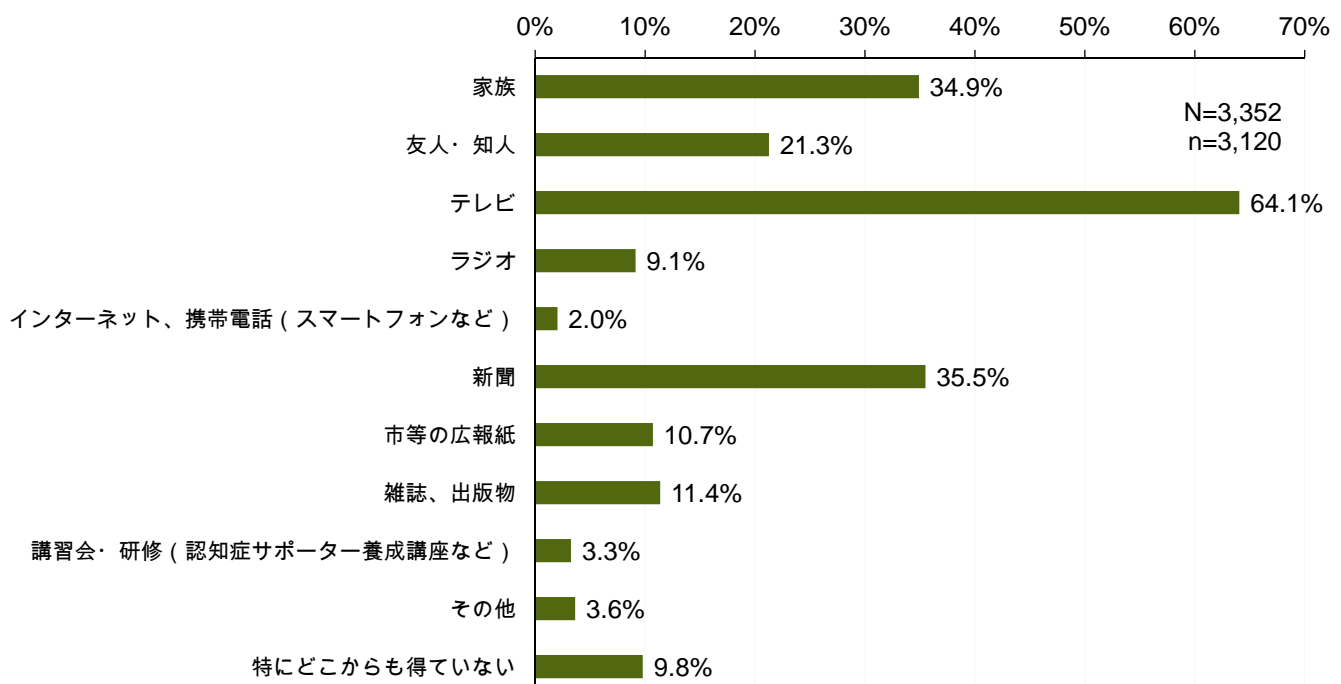
通所介護、認知症対応型通所介護を1年以上利用されている方に、この1年間で状態は改善したかどうかをたずねたところ、「要介護度、要支援度が改善した」と回答した方は6.5%、「状態を維持している」が53.3%、「要介護度、要支援度が悪化した」が9.0%となっている。

- この1年間で、あなたの状態は改善しましたか。(通所介護、認知症対応型通所介護を1年以上利用されている方)



# 認知症に関する情報の入手先

認知症に関する情報の入手先として、「テレビ」64.1%、「新聞」35.5%、「家族」34.9%、「友人・知人」21.3%の順に多くなっている。



# 認知症に関する心配ごと・相談相手

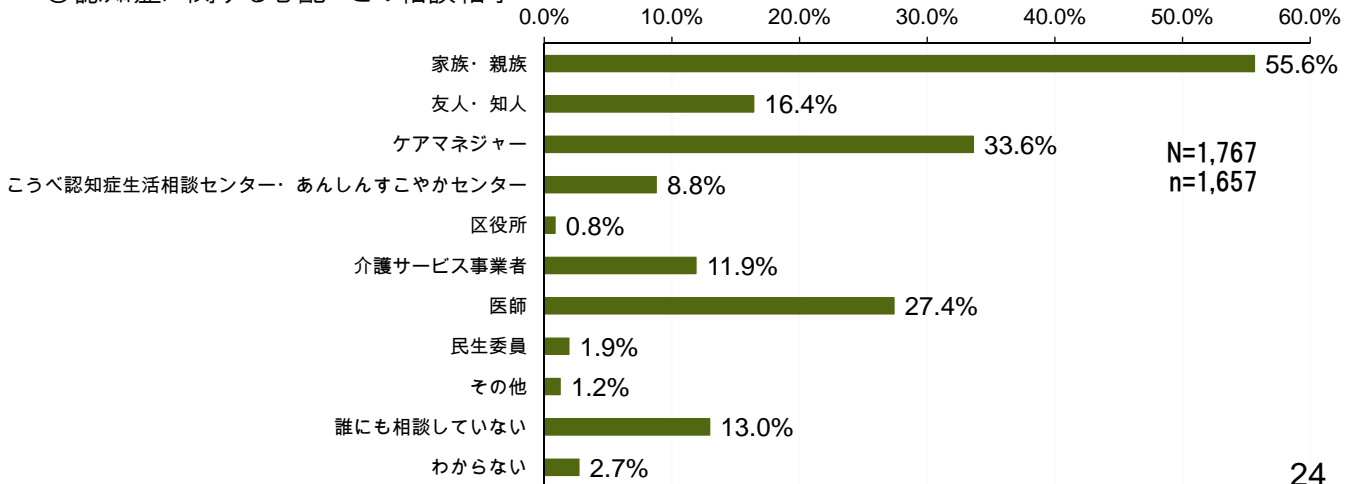
認知症に関する心配ごとが「ある」と回答した方が約5割おられる。それらの方の認知症に関する相談相手は、「家族・親族」が55.6%と最も多く、次いで「ケアマネジャー」33.6%、「医師」27.4%が多くなっている。一方、「誰にも相談していない」方が13.0%おられる。

○認知症に関する心配ごとの有無

N=3,352



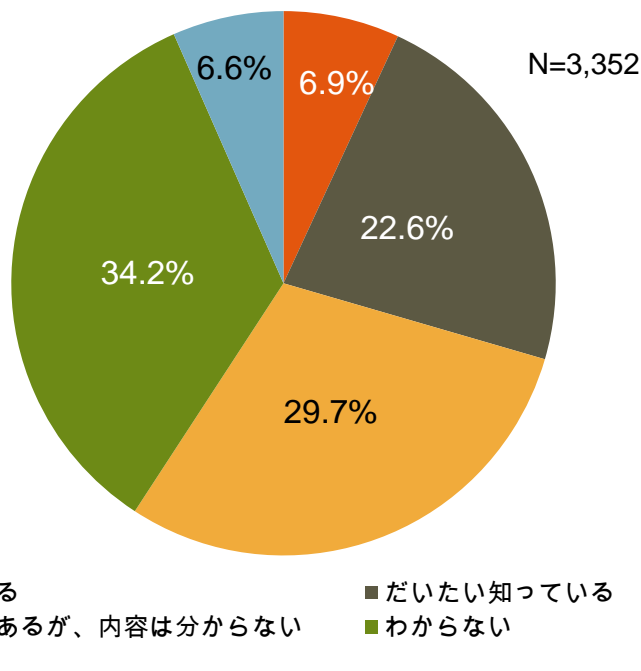
○認知症に関する心配ごとの相談相手



24

# 成年後見人制度の認知度

成年後見人制度を「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した方は合わせて29.5%となっている。一方、「聞いたことはあるが、内容は分からない」「わからない」と回答した方は合わせて63.9%となっている。

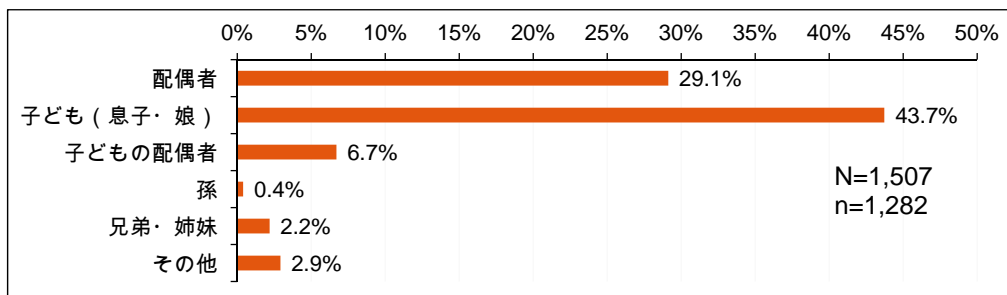


25

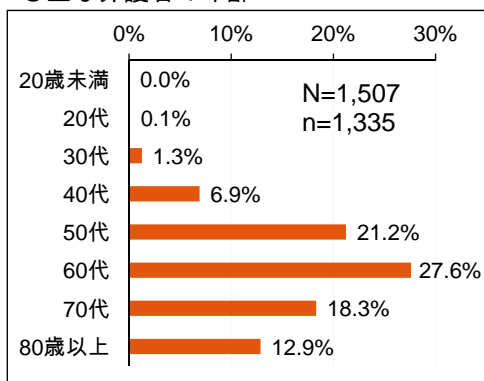
# 介護者の状況

主な介護者の続柄は、「子ども」が43.7%、「配偶者」が29.1%となっており、性別でみると、「男性」32%、「女性」68%となっている。年齢は、「60代」が最も多く27.6%、次いで「50代」21.2%、「70代」18.3%が多くなっており、「80歳以上」も12.9%となっている。

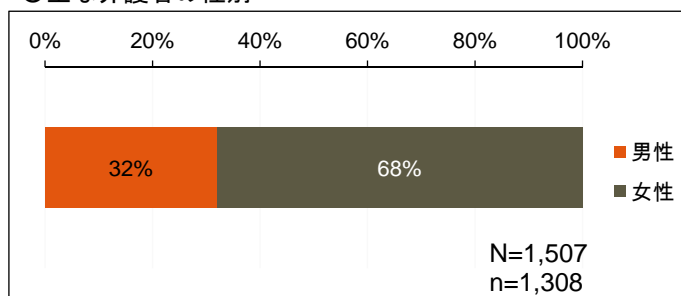
○主な介護者の続柄



○主な介護者の年齢

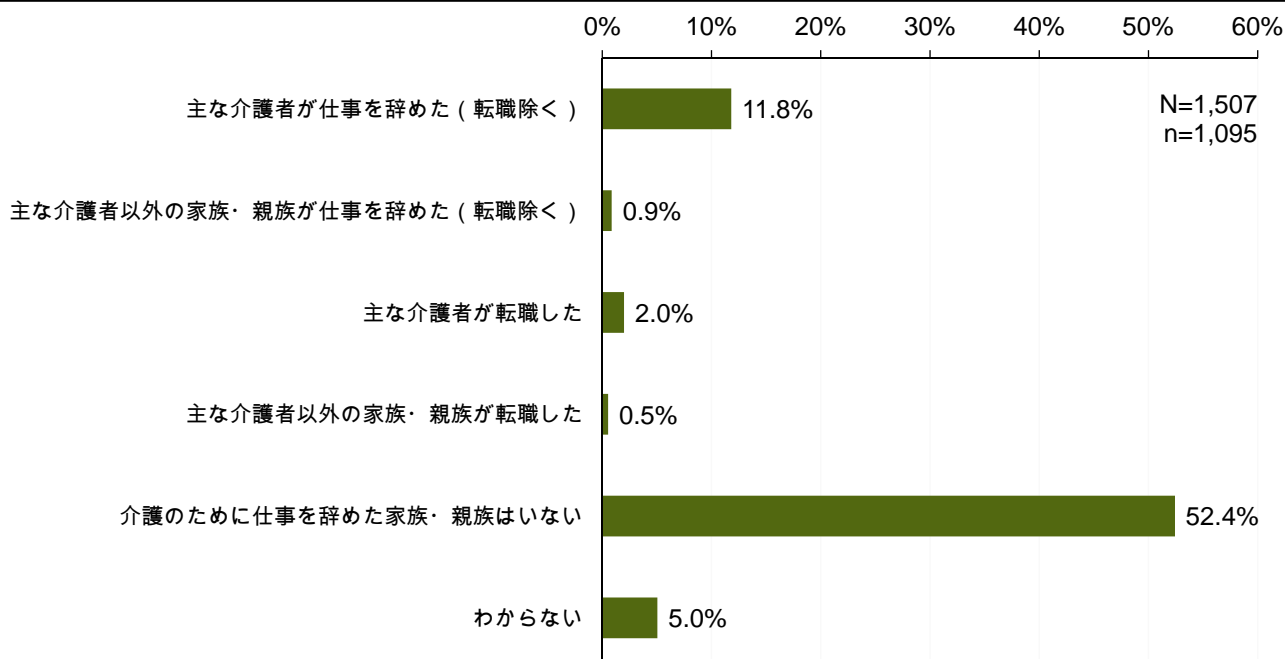


○主な介護者の性別



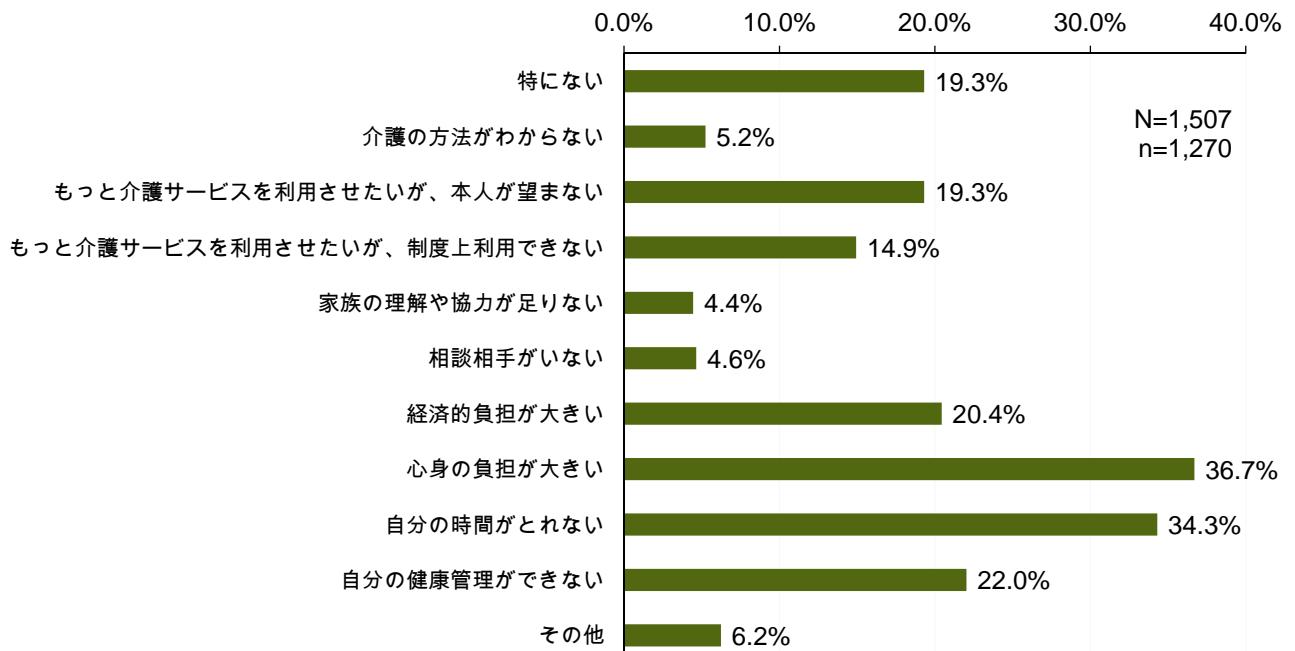
# 家族・親族の介護離職の状況

介護のために過去に仕事を辞めた方がいるかたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が52.4%となっている。一方、「主な介護者が仕事を辞めた」「主な介護者以外の家族が仕事を辞めた」と回答した方が合わせて12.7%となっている。



# 介護者の困りごと

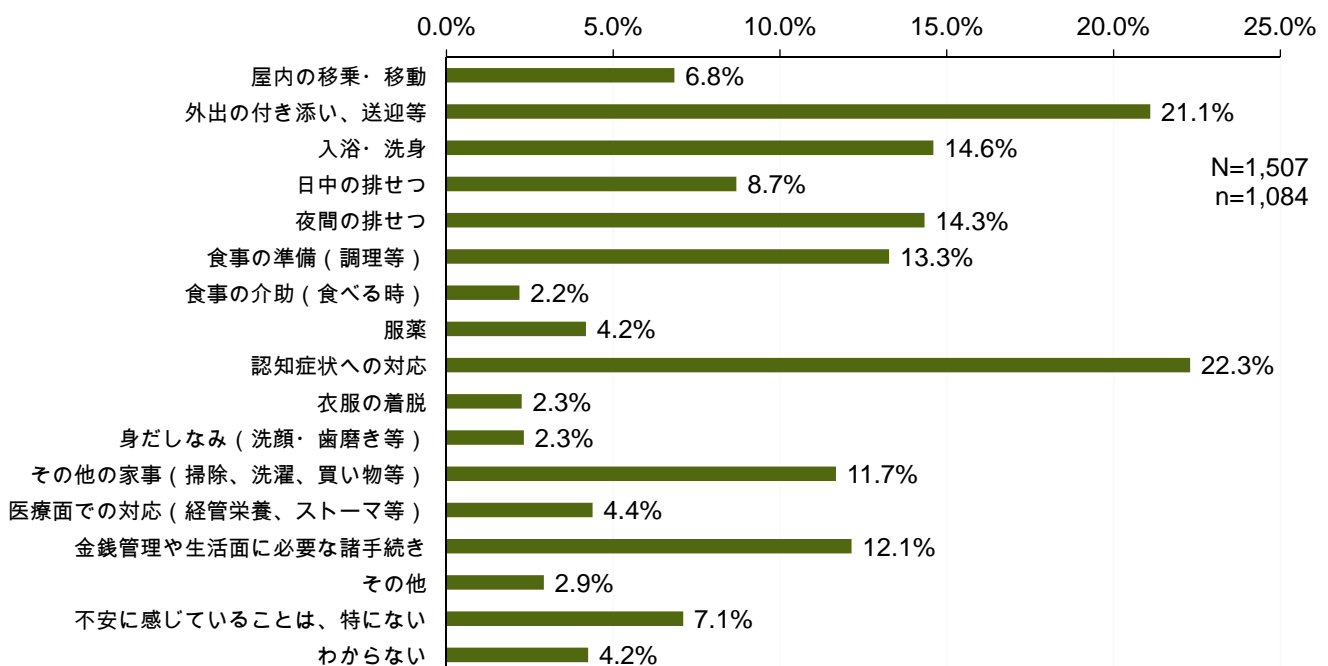
介護者が介護を行ううえで困っていることをたずねたところ、「心身の負担が大きい」が最も多く36.7%、次いで「自分の時間がとれない」34.3%、「自分の健康管理ができない」22.0%、「経済的負担が大きい」20.4%が多くなっている。一方、「特にない」と回答した方は19.3%となっている。



28

# 介護者が不安に感じる介護等

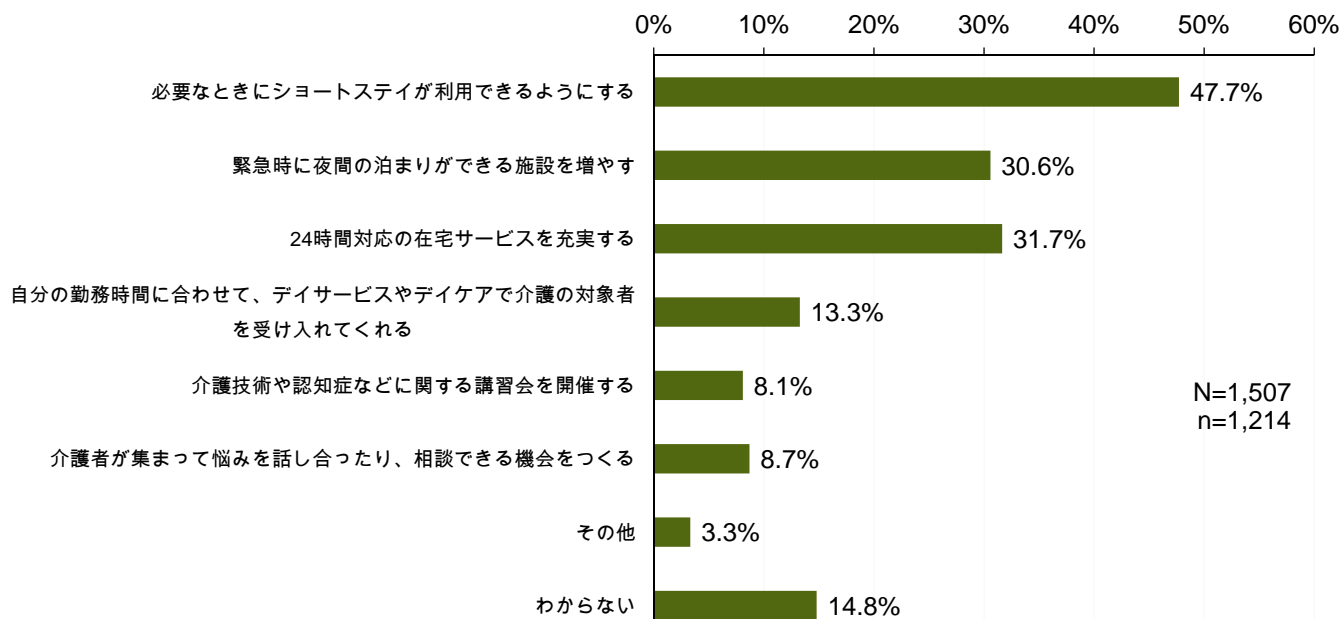
現在の在宅生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等についてたずねたところ、「認知症状への対応」が22.3%と最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が21.1%、「入浴・洗身」が14.6%、「夜間の排せつ」14.3%が多くなっている。



29

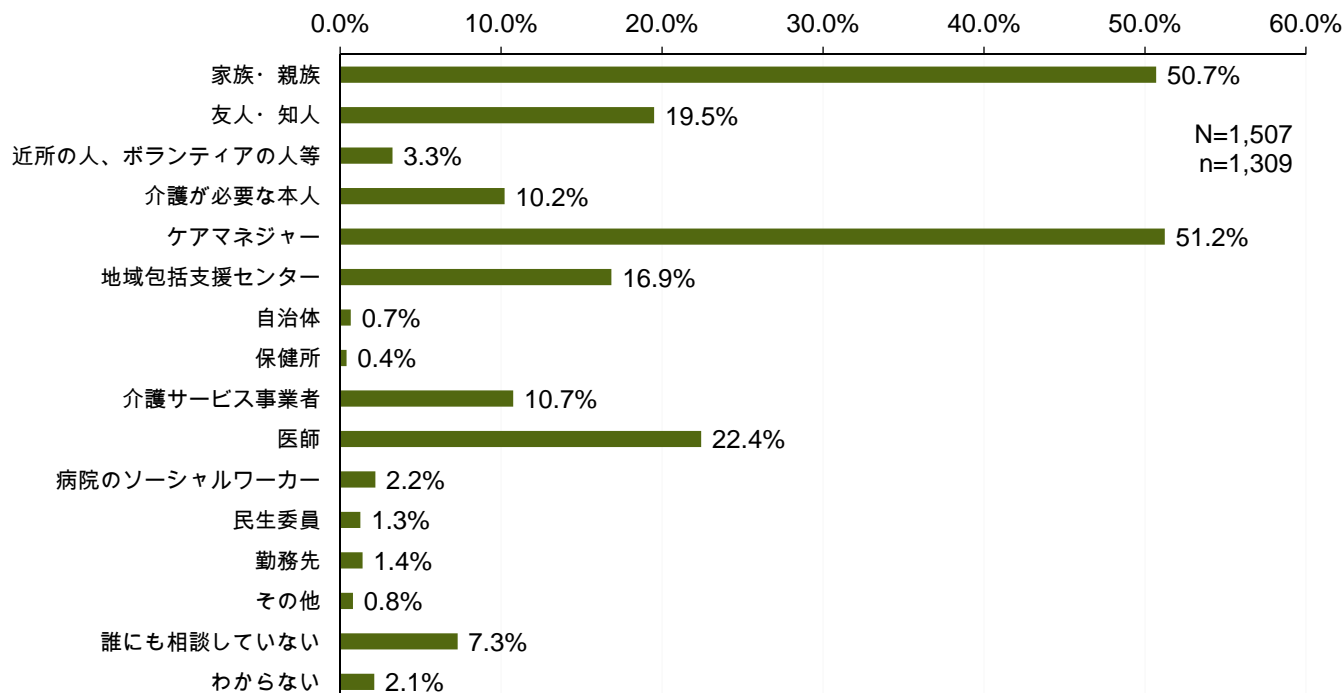
# 介護負担減のために必要な施策

主な介護者の介護負担を減らすためにどのような施策が必要かたずねたところ、「必要なときにショートステイが利用できるようにする」が最も多く47.7%、次いで「24時間対応の在宅サービスを充実する」31.7%、「緊急時に夜間の泊りができる施設を増やす」30.6%が多くなっている。



# 介護者の相談相手

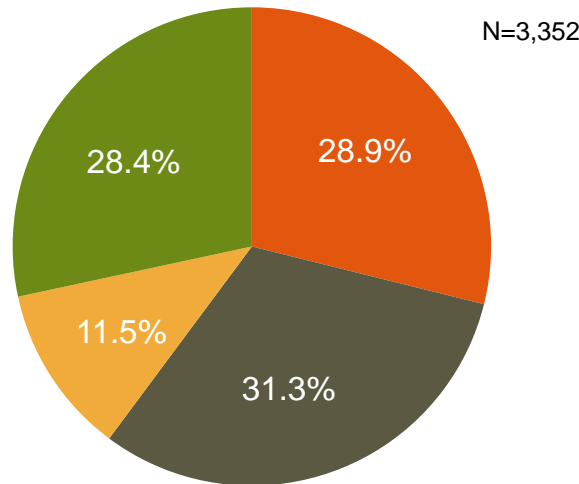
介護者の相談相手は、「ケアマネジャー」が51.2%、「家族・親族」が50.7%、「医師」が22.4%、「友人・知人」が19.5%、「地域包括支援センター」が16.9%の順に多くなっている。





# 介護保険料と介護サービスの考え方

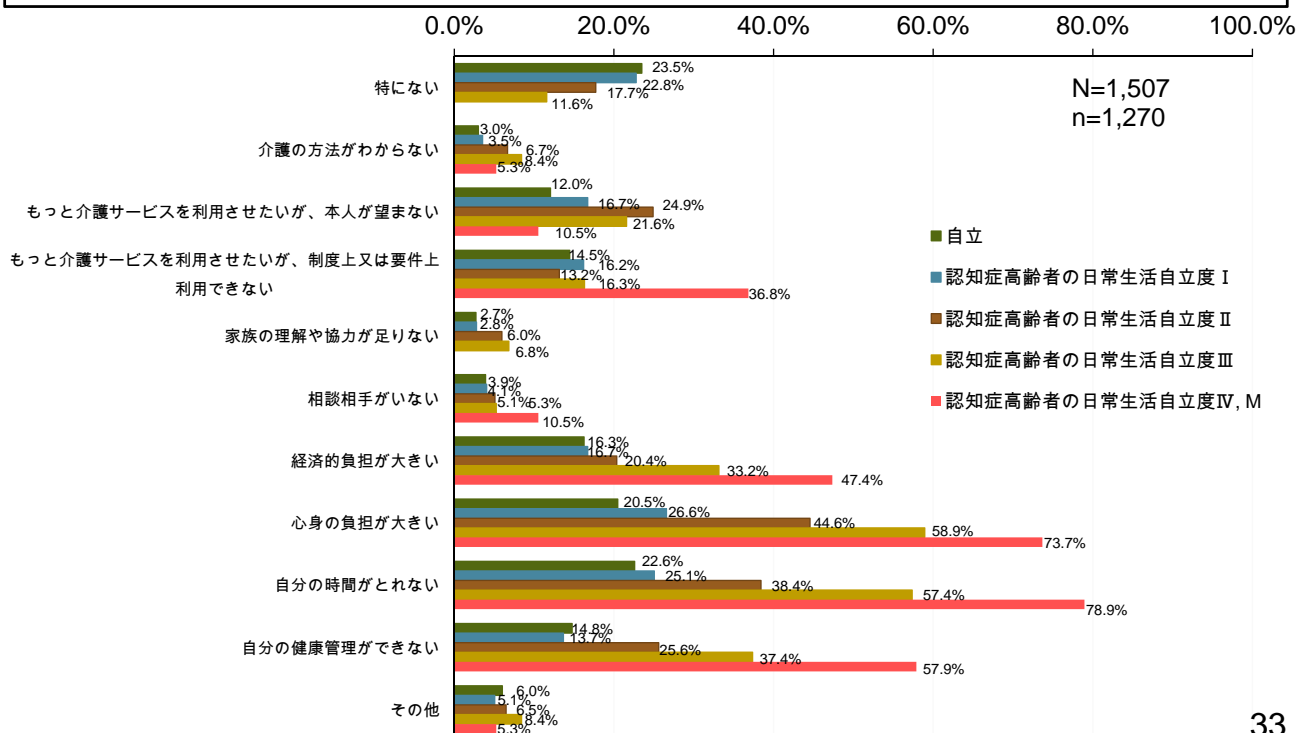
今後の介護保険料について最も近い考えをたずねたところ、「介護保険サービスの現状を維持する」が31.3%と最も多く、次いで「介護保険サービスの見直しやサービス利用者の負担を増やすなどにより、介護保険料を抑制するべき」28.9%、「介護保険サービスをさらに充実させる。そのために、介護保険料が高くなっても仕方がない」11.5%の順となっている。なお、無回答も28.4%となっている。



- 介護保険サービスの見直しやサービス利用者の負担を増やすなどにより、介護保険料を抑制するべき
- 介護保険サービスの現状を維持する (高齢化が進む分だけ介護保険料は高くなる)
- 介護保険サービスをさらに充実させる。そのために、介護保険料が高くなっても仕方がない
- 無回答

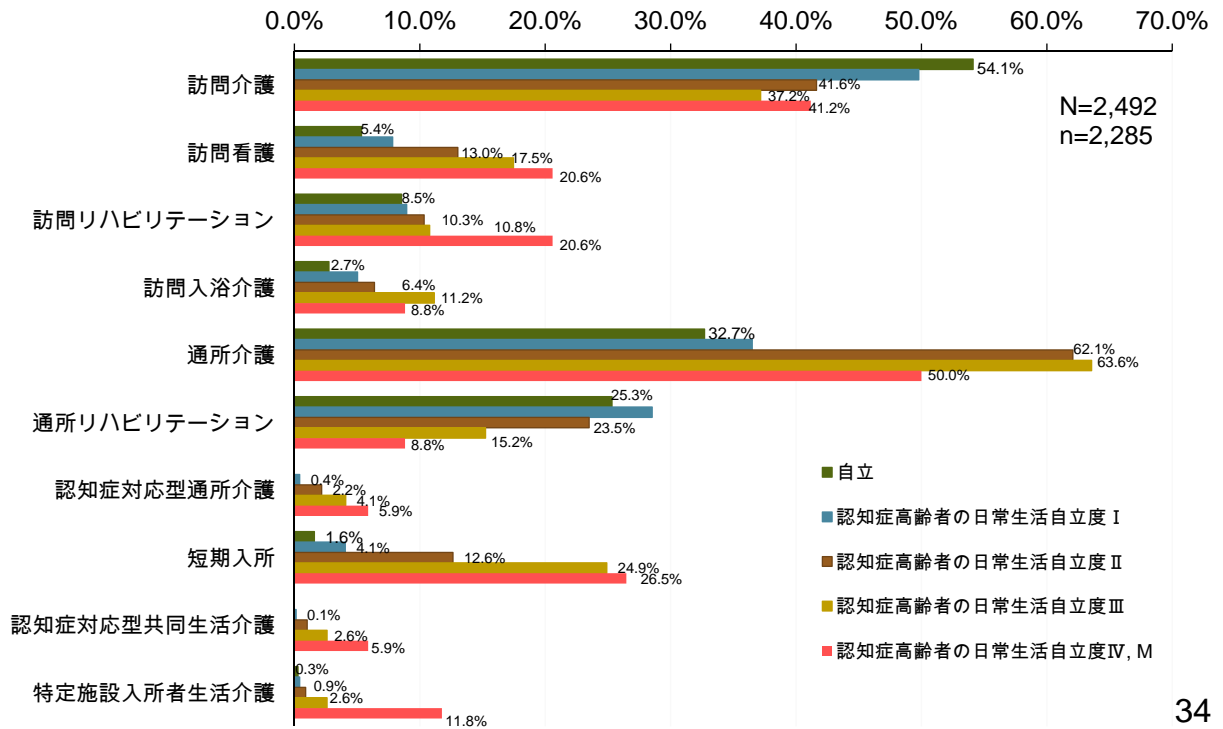
# 介護者が困っていること／認知症自立度

介護者が困っていることについて、認知症高齢者の日常生活自立度別に見てみると、自立及び自立度Ⅰの方と比べて、自立度Ⅱ以上の方は、「経済的負担が大きい」「心身の負担が大きい」「自分の時間がとれない」「自分の健康管理ができない」が特に高くなっている。



# 利用しているサービス／認知症自立度

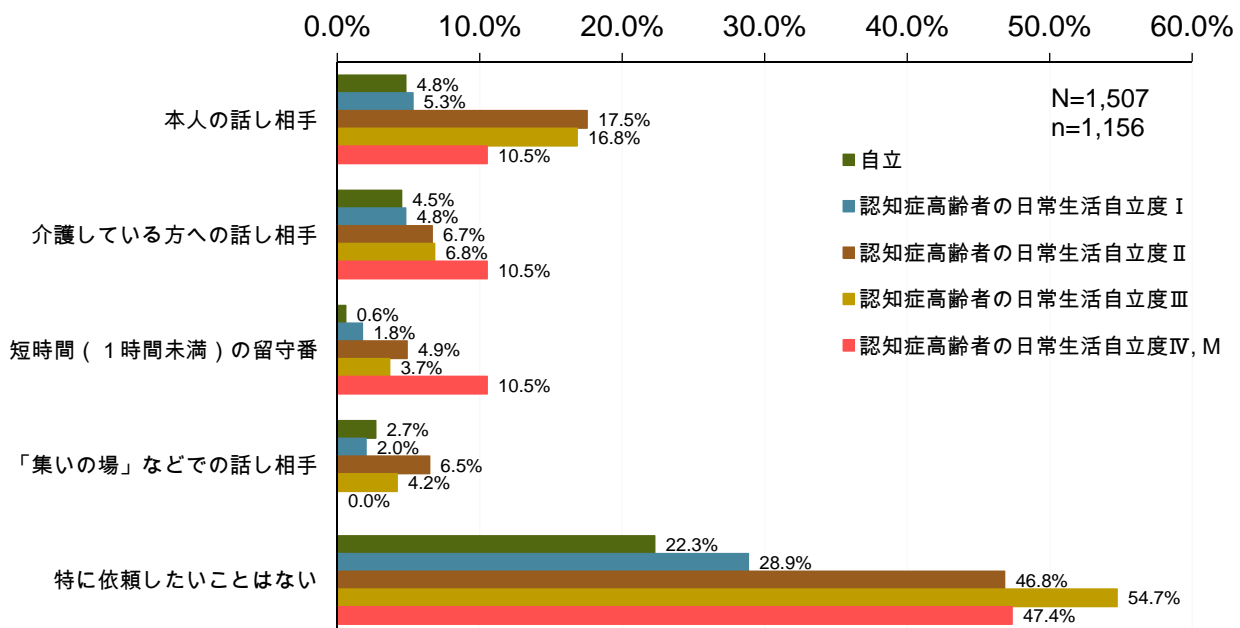
認知症高齢者の日常生活自立度別に利用している介護サービスを見たところ、自立及び自立度Ⅰの方と比べて、自立度Ⅱ以上の方は、「通所介護」と「短期入所」の利用が大幅に増加している。



34

# 認知症サポーターに依頼したいこと／認知症自立度

介護者が認知症サポーターに依頼したいことについて、介護を受けている方の認知症高齢者の日常生活自立度別に見てみると、自立及び自立度Ⅰの方を介護している介護者と比べて、自立度Ⅱ以上の方を介護している介護者は、「本人の話し相手」が特に多くなっている。



35

# 介護者が不安に感じること／認知症自立度

介護者が不安に感じることについて、認知症高齢者の日常生活自立度別に見てみると、自立及び自立度Ⅰの方と比べて、自立度Ⅱ以上の方は、「日中の排せつ」「夜間の排せつ」「服薬」に対する不安が特に多くなっている。

